

水引中校区 令和コミュニティトーク 要約

日 時：令和4年7月27日（水） 14：00～16：00

場 所：水引地区コミュニティセンター

出席者

市：田中市長、永田副市長、未来政策部長、秘書広報課長、コミュニティ課長他
地域：水引中校区の5地区コミュニティ協議会長をはじめとする地区住民30名
(合計42名の参加)

市政報告 市長

このコミュニティトークは、市民の皆様と市長の対話集会という形で、計画的に実施しているところである。

薩摩川内地域内を10会場で行う計画であるが、コロナ禍の影響でこの水引中校区がやっと6回目ということで、令和3年度は甑島で1回、新年度に入ってから、本土の4支所地域、東郷・樋脇・祁答院・入来をやって、市長就任1年8カ月になるが、コロナを避けながらこういった形でやってまいりたい。

市政に関して緊急で2つ申し上げる。新型コロナウイルスは、第7波のBA5が蔓延してきており、昨日の市感染者数の発生が266名と1日の感染者数としては非常に多い状況である。

重症の方は少なく、現時点で鹿児島県、国からは、行動自粛・蔓延防止に関する規制はかかっていないところである。感染予防としては、変わらず、マスクの着用、風通しを良くし、手洗い、手指消毒を各家庭でも事業所でも繰り返していただき、ワクチン接種を希望される方は、ぜひ接種をお願いしたい。60歳以上の方は、3回目を打ってから5カ月後に4回目の接種券が届く。私も3日前に、4回目を打ったが、副反応は全くない。12歳以上の方も、ぜひ3回目を打ってくださるようお願いしたい。また、5歳から11歳の子供達については、ご家族でよく話し合われて、かかりつけの先生とも協議のうえ、希望される方は、ワクチン接種をお勧めする。本市も鹿児島県も罹っている年代層がほぼ同じ構成で10歳以下が3分の1、小中学生とその親世代で感染者全体の8割になっており、罹ることが悪いということではなく、現状としてそうになっている。若い世代の親世代、12歳から59歳の方々も、ぜひワクチン接種をしていただきたい。

後ほど地区振興計画の振り返りにも出てくると思われるが、コロナ禍で自治会、コミュニティ協議会、市もイベントを自粛してきた。現時点で難しい判断ではあるが、令和4年度の市の主催行事は、会議、イベントまでを含めて気をつけながら、開催する方向で議論している。3年前と同様な時間、場所の広さ、出席人数ということではなく、40%でも50%でも規模を縮小しながら、開催していこうと議論を進めている。なお、県、国が行動自粛など蔓延防止を指定した時は、それに合わせてイベントをしないこともあるが、現時点では基本開催する方向で議論を進めている。

もう1つ災害対応であるが、毎年、線状降水帯の大雨が強くなっており、今年の6月の梅雨の期間は16日ぐらいで明けたが、7月5日から20日までの約2週間のうちに、4回避難指示を出した。甑島地域のみ、祁答院地域のみという指示もあったが、油断も隙もない天気、しかも避難指示の発令が全て真夜中で、急に大雨警報、土砂災害警報が発表され、職員が待機し避難指示を出した。

この避難指示の放送を防災行政無線で各家庭、事業所内外、真夜中でも避難指示の判断をした時は、放送する。市民に避難をお願いするのは、高齢者等避難という言葉と避難指示という法律上この2つしかない。夜中に避難指示の放送をしても、無理して自宅から離れた避難所に移動ください。という意味ではない。自宅の安全な場所、崖から離れた場所、あるいは2階、それから隣の大きい家に、避難させてもらうなど、安全な場所に身を置くという意味で、時間を問わず避難指示を放送する。

市役所組織は、合併以来18年になるが、長く組織の再編が無く、昨年10月に甑島の組織を再編し、振興局を作った。本土の本庁も18年ぶりに部制を再編し、部と課の名前などを変えて、組織を再編した。

光ファイバー網は、48地区コミュニティ協議会から光ファイバー網整備の要望を長くいただいていた。今年の2月に甑島も含めて48地区に完備された。引き込みを希望される方は、担当企業に相談され、このファイバー網も利用いただきたい。

今後の方向性として、今年の2月にアフターコロナを見据えた薩摩川内市の中期的展望の5項目を発表した。中身は後ほど申し上げるが、1番目が48地区コミュニティ協議会の地区振興計画を見直しで、令和4年度、5年度にかけて、令和6年度から10年度までの5年間の計画を各コミュニティ協議会で作成いただきたい。

今年中に市の担当者を48地区に貼り付けるので、コミュニティ協議会と市が一緒になり、各地区振興計画の振り返りをしながら、5年間の計画を作っていこうという考えである。合わせて市全体の計画も、令和6年9月議会に基本構想議案を出す方向で準備を進めている。

昨日、川内火力発電所跡地について、サーキュラーパーク九州構想を九州電力が発表し、市、九州電力、早稲田大学、鹿児島銀行とナカダイホールディングスというリサイクル業者の5社で基本協定の調印をした。今年4月に32haの敷地がある火力発電所が廃止になったことから、循環経済や新しい産業を作り出そうというものである。また、今年から川内港の北側の唐浜ふ頭も国直轄事業で事業決定したので、合わせて隣接する火力発電所が廃止された後を平場にし、新しい環境に配慮した企業を作っていくことが、昨日の出発点である。非常に珍しい組み合わせで、これから実施計画を詰めていくが、九州電力の考え方によると、向こう3年以内に具体的な企業立地をしたいと、市も協定の当事者であり、あらゆるコミュニティのご要望、議会の要望を汲み取りながら、将来に持続できるような、環境配慮の企業ができるよう持っていきたい。

未来展望の中でも、東シナ海の沿海地区、水引地区は非常にプロジェクトがたくさんあり、川内港の唐浜地区が向こう6年間、令和10年4月に国際物流ターミナルを竣工することで、6年間に160億円、国がお金を入れることと、火力発電所の32ha、川内川左岸、滄浪地区のみらいゾーンについても、令和5年度から32

haのうち16haを分譲用地として部分的に企業に分譲する考えである。

また、南九州西回り自動車道も、水引ICから北の方に、用地買収と工事準備がされており、またトンネルを掘る準備もされているので、明らかにされたら公表したいと考えている。

この対話集会は、これまでまちづくり懇話会という名前であったが、コミュニティトークという横文字に変えた。

中身は、市長と市の職員が市民の生の声を聞くことは変わっていない。各地区コミュニティ協議会の会長に地区振興計画を振り返ってもらい、達成できたところと課題を発表してもらおう。事前にいただいた要望や、地域課題への回答を部長がします。回答に至るまでは、市役所の内部で私も同席し、何回も各部課長協議をし、最初の回答は部長がするということ、支所地域では、例えば東郷町であれば、答弁は東郷支所長、私が次に答えるやり方をしている。ご理解願いたい。

最後に、地区コミュニティ制度ができてちょうど17年、合併の時に協議をし、発足は平成17年だったと思うが、当時から長い年月が経っている。地区コミュニティ協議会組織のあり方、各自治会との関わり方は、令和4年度、5年度で補助金制度を含めて見直したい。556自治会と48地区コミュニティ協議会を非常に重要に考えており、各自治会が一体となって、地区コミュニティ協議会を支えていく、お互いに助け合っていく仕組みは、ずっと変わるものではないと思っている。

人口減少に伴い、各地域で自治会の持続性が、非常に大きな課題になっている。今後、各地区コミュニティ協議会、各自治会の再編、1つの再編のあり方としては、合併があるが、自治会の合併について、各自治会内で自主的に話し合ってみようという意見があれば、市も一緒になって、方向性の議論には、立ち会ってまいりたい。

合併しなさいという意味ではない。方向性を含めて、協議の中身を様々な個々の事情、コミュニティ協議会間で人口差も非常にあり千差万別であるので、自らの組織について議論される場合は職員も一緒になって、今後長続きする自治会、地区コミュニティ協議会の制度を考えてまいりたい。

色々行政課題もあるが、私も昭和54年に合併前の川内市役所に入り、27年間勤め、一昨年の5月まで県議会議員を4期13年間させていただき、市長が今やっと1年8カ月となった。引き続き一緒に、自治会、地区コミュニティ協議会、薩摩川内市のあるべき方向を議論し、一生懸命頑張ってみようと思うので、率直なご意見をお寄せくださるようお願いする。

地区振興計画振り返り

【水引地区】

- ・ 元気で安心して暮らせる町づくりでは、ふれあいサロンを高齢者対象として各地域で実施している。地域の方々、高齢の方々から自ら進んで参加し楽しく過ごせる場所ができることにより、精神的にも安定した日々の暮らしができると思っている。令和元年度の実績は、16サロンで205回実施し、参加人数は、3309人となっている。今後も高齢者を対象としたサロンを各地域で実施したいと思っている。
- ・ 地域福祉活動の充実では、支え合いマップ作りに取り組んでいる。1人暮らしの高齢者の方が多く、昔と違い、今は隣近所の情報がなかなか分からないので、

自治会と班長、地域の1人暮らしの方、民生委員も含めてお互いに顔を合わせるようにし、繋がりを強固なものにしたい。年寄りの同士でも助け合うことができるようにしたいと思っている。現在7つの自治会で取り組んでいるが、今後さらに2つの自治会が取り組む予定である。

- ・ 達成できなかったこともあるが、子供育成事業を隔年で、令和2年度に実施する予定がコロナのために実施できなかった。今後も地区住民に対して呼びかけし、ごみ減量や不法投棄の減少など、活動を実施したいと思っている。
- ・ 前回のまちづくり懇話会で、水引の岩下・焼山線でトラックが離合できないと申し込んであったが、一応結論が出て、道路工事をすることに決まった。この点は非常にありがたいと思う。

【滄浪地区】

- ・ 全体的にコロナ禍の中、各地域からの人流を伴うイベントは、春の次郎次郎踊り、夏の想夫恋、建網干し漁とほとんど中止した。また、大人数で行う地区の夏まつり、地域のグランドゴルフも同様に取りやめた。
- ・ 重点3項目の活動状況は、収益事業として、建網干し事業及び特産品の販売であるが、1番のイベントの建網干し漁が、コロナの影響により開催できず非常に残念であった。ある企業の協力によって、デモンストレーションで建網干し漁を実施した。募集・広告のDVDを作成いただき、今後の集客に役立つだろうと思っている。デモンストレーションではあったが、まずまずの魚が取れ、協力くださった高江未来学校のメンバーにも大好評であった。
- ・ 2番目に久見崎公園利用促進及びみらいゾーン開発の推進について、コロナ禍でイベントが無く公園利用が無かったが、公園規約改正に伴い、はまぼう館の利用貸し出しができるようになった。これまでは、地域行事のみでの使用であったが、今後市内外の企業などにも案内をかけ、利用の促進に努めたい。
- ・ 3番目、防犯、交通、安全対策については、九州電力関係の車両がとても多く、通行する高齢者が危険なため、交通事故ゼロを目指し、軽トラのパトロール隊を作って巡回した。また、オレオレ詐欺の被害を未然に防ぐため、毎週木曜日にサロンを開き、地元駐在を交えて啓蒙活動を行っている。
- ・ 今後、力を入れて取り組んでいきたい活動は、地元の技を生かして、伝統漁法の建網干し漁をメインに久見崎をアピールしたい。進捗状況が最も良かった事業は、コロナ禍でありながらしっかりと対策し、高齢者の集まるサロンを開催し、参加者の健康状態、生活環境の情報収集に努め、併せて近隣の不参加者の情報収集を行い、その現状を民生委員、福祉アドバイザーに伝えることができた。
- ・ うまくいかなかった事業は、全てであるが、今後は徐々に実施できる見込みと思っている。

【寄田地区】

- ・ 基本方針の中の安全で安心な住み良い町づくりとして、コミュニティ助成事業では、防犯灯設置事業を行っている。防犯灯の設置については、順次設置やLED化を進めており、先週市の方から各自治会に対しての防犯灯、街路灯の数の調

査が来ていた。各自治会からも出ていると思うが、空家が多くなり、新たに暗い場所もできているため、自治会と連携し、場所の把握と設置の検討を考えている。防犯灯、街路灯が設置してある分は、ほとんどLEDになっている。

- ごみ分別・収集及び指導事業については、自治会長やリサイクル担当を中心に指導及び監督が継続されている。居住が長い住民が多いので、意識も高くマナーも守られているので、現状のまま進めたいと思っている。
- 敬老祝賀会、地区夏祭りの開催については、現在、コロナ禍の中で2年間中止にしており、この前の運営委員会で本年度までは中止が決定したが、新型コロナウイルスの影響が落ち着いたら、イベントを年明けに実施するか、検討中である。
- 基本方針の健全で心豊かな青少年を育むまちづくりについては、郷土の伝統・文化に触れ、情緒豊かな子供の育成を図る目的で、昭和38年6月に県の民俗無形文化財認定された寄田町棒踊りを教えている。例年であれば、6月の入梅時期に寄田地区の馬頭観音を始め、11箇所神社を踊ってまわり、新田神社の境内で奉納し、上川内まで子供たちを連れて訪問していたが、これもコロナ禍で中止となっている。加えて人口減少や子育て世代・指導者の流出に伴い、伝統芸能を継承していく環境としては、厳しい現状にある。このような支障が出ているが、水引小学校の4年生に対し、現在継続して7年間、毎年10月に踊りを指導し、学校の文化祭で披露いただいている。人口減少で地域の児童数が減り、保存会員も減っていくので、今の小学生に教えてきたものが、この後もまた自分たちが伝統を守って新田神社に奉納し、水引で教えて覚えてくれた子供たちを成長したときに誘い、また一緒に踊り、保存会員を絶やさず継承していけるよう、色々と検討している。
- 健全で心豊かな青少年を育むまちづくりの一環で、寄田地区にある貴重な動植物、遺跡、田畑、山、川を調査する寄田の宝調査事業として、寄田の史跡巡りのマップを作ってみた。ウォーキングコースを3コース作りたいと考え、1コースは作成できたが、2コース、3コースに天狗鼻の灯台を入れたいと考えており、これは北海道の宗谷岬と大分県の鶴御崎と川内の天狗鼻と現存している望楼台遺構として3カ所文化財になっているもののうちのひとつである。私達も何回か見に行っているが、現在、土川方面からの1.6kmに及ぶ道路は、車が通れる状況ではない。秋口の棚田の掛け干しが下がっている11月頃の地域巡りに間に合えばと考えているが、夏休みに整備ができず間に合わないということで、道路を整備いただければ、ウォーキングコースにできると考えている。
- いつまでも健康で地域の中で楽しく暮らせる、明るいまちづくりとして、高齢化、過疎化が進む中で、災害や事故、事件に対応する連絡網整備推進事業をしている。独り住まいの老人が多数なので、緊急時の連絡網として計画書で1番目、2番目、3番目に連絡する人を取りまとめ作っている。自治会や民生委員で連絡網を確認し、非常事態時の連絡体制は十分なされていると思う。地区社会福祉協議会のスタッフにもお願いし、色々指導を得てやっている。
- 自然と調和した優しいまちづくりでは、耕作放棄地対策に関する事で、寄田は先代が築いた棚田が12町歩あり、棚田に用水を引くために4.3km離れた毎床集落のから川水路を引いているが、そこも現在耕作者が少なくなり、10世帯

ぐらいで3町歩作っている。しかしまとまって作っていないので、その間が結局耕作放棄地帯になり、害獣のイノシシ、シカ、ムジナが出てきている。昔は中山間地の農業をしている方に燃料代や日当代を支払って、整備を依頼していたが、今はそういうシステムがないので、何か対策をとるのが、1番の問題になっている。我々地区住民同士での検討会でも、継続的に取り組みや対策を実施していこうという考えも持っており、草を払ってそのままにせず、景観もあるので、田を作らないのであれば、コスモスとかひまわりとかを植えて荒れさせないように継続したいという話が出ている。ここで棚田の問題に関して、一生懸命頑張ってくれている前のコミュニティ主事が説明してもよろしいか。

(前コミュニティ主事)

- ▶ 中山間地域の適用を受けようと色々調べたが、対象にはならないと言われ、水引中校区自体を指定してもらえないかと市議とも話をした。市町村長の決定が必要とのことで、運用規則にできないのであればしょうがないが、考えていただき、後で良いので回答いただきたい。
- ・ 現在の耕作者と寄田地区は、里の会というボランティア団体を作っており、道路の愛護作業を会員に賛同いただいて活躍いただいている。メンバーもこの休耕田の整備は全員でやっても一気にはできないから、市から知恵がいただけたらと話し合いで色々出て現在に至っている。検討いただきたい。

【湯田地区】

- ・ 重点目標として、夢のあるまちづくり、活気あふれるまちづくり、賑わいのあるまちづくりを目指して、4つの部会を設け、それぞれ努力目標を掲げて活動を行っている。
- ・ 地区コミュニティ活性化事業補助金のビジネスコースで運営しており、薩摩高城館と川内高城温泉の活用が一番の核になっている。薩摩高城館については、湯田地区コミュニティ協議会を管理者とし運営している。ただ、素人がすることではなかなか難しいが、湯田地区内の高齢者の栽培した野菜が、各家庭で残った場合やたくさん収穫できた時に薩摩高城館で販売し、少しでも小遣いの足しになれば、ということをして1番の目的として思っている。客層は、地元よりも国道の近くのので、それに合わせて並べる商品も当初よりは変わってきている。栽培する高齢者も車に必ず乗る人ばかりじゃないので、作ったその野菜を薩摩高城館まで運ぶ方法など、納める方も買う方にしても、高齢者が利用しやすい方法を考えていかなければならない。
- ・ 今コロナで中止しているが、専門家を招いて野菜の作り方等の園芸サロン講習会を毎年2回行っていた。コロナが収まれば、高齢者のためにもなると思う。特に高齢者にコミュニティセンターの調理室を利用してもらい、昔ながらのものや地域に昔からある農産物の加工品を作ってもらい、それを販売し販路の拡大につなげたい。
- ・ 活気あふれるまちづくりでは、高城温泉のバイパス、トンネルも完成し、便利

になったが、高城温泉には、よか湯協議会という組織が湯之元自治会にあり、湯田の共同湯の運営を委託している。コロナでイベント等はできていないが、収まれば、イベントも復活し活気あふれるものになっていくと思う。

- ・ 賑わいのあるまちづくりでは、湯田は、小・中学校が閉校になり、中学校については、きくらげ栽培の会社の話があったが、直前に中止になった。閉校している学校はいっぱいあると思うが、小学校、中学校が並んで閉校しているところは、少ないと思う。利便性を最大限に活かして、色々なイベント、サロン等の誘致を地元の人たちだけでなく、多くの市民に利用していただけるイベント等の誘致を行っていききたい。
- ・ 海岸の近くに昔からある畑でできた玉ねぎを塩玉ねぎとして、市のふるさと納税の返礼品にも指定いただいているが、後継者がなく量的に十分確保できない問題がある。市の期待にも沿えていないと思う。普通の玉ねぎよりも高い価格であるが魅力ある品物だと思うので、後継者を増やしていききたい。

【西方地区】

- ・ 昨年度までコロナウイルス拡大により、一部の部会は別として大部分できなかった。今期は少し前向きになるよう工夫しながら取り組んでいる。住民同士が顔を合わせる機会を増やすこと、コミュニケーションの希薄さを無くすこと、みんな活発に話し合うことが大事である。との話から今年取り組んでいこうとしている。
- ・ 小さな拠点づくりの話し合いを進めているが、西方の現状をよく把握し、これから先、大人も子供も安心して暮らし続けるためにどうしたらいいかをみんな話し合い、課題や問題を洗い出し、どんなことに取り組むかということのある程度できて、決めるところまで来た。その過程で、いろんな主要課題も出てきたので、後期の地区振興計画を見直していききたいと考えている。我々のところは、中身が細かく多いことからスリム化し、何よりも地区のみんなの実力を上げていこうと思っている。

市長コメント

5地区の会長から丁寧な説明いただいた。地区振興計画の内容をつぶさに縦横見て、よかった点は、水引地区は高齢者サロン、支え合いのまちづくり、市道岩下・焼山線の道路工事着手があった。滄浪地区は、多少復唱になるが、はまぼう館を地区以外の方に貸し出せる制度改正になったこと、軽トラパトロールの実施、高齢者サロンがあった。寄田地区は、たくさんの報告をいただいたが、防犯灯の設置計画・LED化、ごみの分別収集、特に、寄田地区の特筆する文化である三尺棒踊りの成果として、これまで水引小の4年生に教えて1つの継承の方法ということもあり、かつ、全体的には後継者不足という課題の紹介もあった。宝探し事業、史跡巡りのマップも紹介いただいた。湯田地区は、指定管理制度の薩摩高城館オープン、温泉街路の舗装の記載があった。西方地区は、小さな拠点づくりを協議中とのことで、今後の地区振興計画の1つのいい方向性になると思う。

全体的な未達成、できなかった点は、やはり全地区コロナ禍で、各部会、それか

らイベントができなかったことが、全体的な傾向になっている。この中で出された寄田地区の天狗鼻に至る道路の草刈り等と、棚田に対する中山間地域の支払い制度の適用の可否については、フリートークの冒頭で答弁させる。湯田地区からの閉校した小中学校の活用と塩玉ねぎの今後についても、フリートークの冒頭で2つ答弁させる。

コミュニティトークもここで6カ所目だが、地区振興計画が17年目になり、全体的な事業内容の方向性としては、どの地区も子ども達の育成見守り、高齢者の見守り、身近な環境美化、防災、地区内外との交流のイベント開催が大きな柱になっている。ただ、3年間コロナの影響で、コロナ禍でも頑張ったところと、やむなく中止したところがあり、令和4年度以降のアフターコロナの大きな課題だと思う。共通課題であるが、地区振興計画を達成できた点、できなかった点もあるが、人口減少が推計として日本では当分の間は続くので、薩摩川内市のみならず、556自治会、48地区コミュニティ協議会、市全体、鹿児島市も東京都も向こう数十年、人口は減るという傾向にあるので、絶えず自治組織の中、地区コミュニティ協議会の中、市全体で、行政と議会はこの議論を続けていかなければならない。どういう組み合わせやり方が持続可能か。という議論を終わるものではないという前提認識である。今後、非常に広大な水引中校区5地区コミュニティ協議会があるが、私が思う目指す方向性だが、コロナ以前の3年前のイベントを再開することが、大きな一歩だと思う。私も、市長1年8カ月で、ほとんど八幡地区の自治会のイベントにも出ることがない。招待が無いということもあるが、令和4年度は、これまでも3年ぶりに消防操法大会も開催し、8月の花火大会も3年ぶり、大綱引きも綱練りだけだが3年ぶりに、はんや踊りも現時点では開催する方向であるので、先ほど各コミュニティ協議会からもあったように、各地区の、例えば建網干し漁とか、様々なことについても、再開できればコミュニティの振興になるのではないかと思う。

アフターコロナの中で地区のイベント再開については、令和4年度の後半、地区振興計画の中でぜひ議論いただいて、今のマンパワー、いろんな補助制度の中で、やれる、やっていかないかん。というような判断で取捨選択という議論も出てくるのではないかと考えている。

事前提出議題

議題1 月屋山に多数ある石灰窯の保存について【水引地区】

水引小学校の地区までは大体シラス台地が多いが、月屋山は、海底から隆起した鹿児島では珍しい地域で、石灰山で昔から石灰を取り、窯で焼いて、粉にして肥料を生産していた。昭和になってから、化学肥料が作られるようになり徐々に生産されなくなったが、釜はそのまま残っている。この大きな釜跡を月屋山の登山口の左側に看板を立てているが、スコットランドの石灰窯と全く作りが一緒で、ネットで調べると向こうから技術をもらって作ったのかと思うぐらいそっくりな作りである。穴があいたままでは危ないので、中は全部埋めてあるが、外壁が綺麗に残っている。このままでは風にさらされたまま劣化し、レンガも崩れていくので、市の文化遺産として残してもらえないか。

未来政策部長

月屋山については、水引地区コミュニティ協議会、水引探検隊 i n 月屋山などの皆様が展望所を整備され、川内川の河口付近の景勝地として、活用されており非常にありがたく思っている。

月屋山に関しての活性化策は、今回の石灰窯のみならず、地域活性化の資源として思われていることも十分承知している。私共も水引郷土史を調べたところ、埋蔵量は4億トン以上と言われていて、明治、大正、昭和と石灰製造が盛んで、一時期は、100事業体ほどの石灰を取る製造が盛んであったが、これが徐々に萎んで昭和33年には閉山したと記録に残っている。文化遺産とのことだが、今のデータでは、文化財指定は厳しい感じもある。学術的な調査をしないといけないので、保存した後、地域でどう活用されるかも含めて、意見交換をしてまいりたい。現場は市長も確認しているので、意見交換を進めさせていただきたい。

市長

月屋山の登山道は、元日に私も2回ほど登り、1回は川内川あらしを見ることができた。部長が申し上げたように、先ほど2カ所県道から見える釜を見てまいった。石灰という存在は非常に貴重であるが、仮に土を取り除いて空気にさらした時に、劣化しないかという見方もある。これまでの経過と、今後の方向性を意見交換させてもらいたい。

地区振興計画のことを申し上げると、貴重な郷土遺産として、地区振興計画にも明示され、子供たちのふるさと教育といった活用も1つの具体例ではないかと思う。

議題2 県道43号線の改修について【滄浪地区】

県道43号線は、原子力発電所の立地地域にあり、非常時の避難道になっている。大雨、津波、高潮などにより越波し、地域マップによると途絶道路となっている。何かあるときには、通行止めになるとのことで、原子力発電所が万が一事故した場合に、避難道路として使えるのかと第一に考え、早急な改修を望んでいる。

未来政策部長

県道43号線の整備についての認識は、私共も全く一緒である。避難道路としてはもちろん、大型の災害支援車など物資車両の侵入路にもなり、今言われたようなことにならないよう今年も8月に県知事に要望してまいりたい。

また、6月22日に市も同席し、県の北薩地域振興局と地元の協議会会長はじめ、役員の皆様と令和4年度の工事内容について協議を行った。越波対策、道路の冠水対策は実施しているが、引き続きこれが進むようにと、日常の巡視や、台風前後での巡視など、適切な維持管理を徹底していただくとのコメントを県からいただいている。平成30年7月の台風7号で越波が観測され、令和元年から順次、川内川の高潮対策事業に新規に着手いただいているので、令和4年度は川内川河口上流部のはまぼう館周辺の整備をする予定と聞いている。

法面の伐採工事等も行っているところであるが、8月に県知事へ直接要望する機会があるので、災害等で道路の交通が不能にならないよう道路の改修を引き続き、要望してまいりたい。

市長

川内串木野線は、市内の中でも生活面、産業面、防災面、重要な県道であり、冠水があった平成28年前後も私が県議会議員で、地元の方と県に要望した経緯がある。

県も地元今年具体的な施工内容を説明されており、国の国土強靱化から、高潮対策事業、右岸側の港町は、河口大橋の上流下流が完成し、いよいよ滄浪地区に移ってきているので、高潮対策は、河口大橋の滄浪地区の上流下流部から、年事計画で進むことになっている。来月、塩田知事に要望をする本市の要望の中に含まれている。去年は、塩田知事とコロナの関係でテレビ会議を行ったが、今年は対面で要望できる見通しなので、直接私からも塩田知事に要望する。

議題3 閉塞地域及びコロナ禍以降のコミュニティ活動推進について【寄田地区】

寄田地区は男性102名、女性117名、合計219名。このうち、65歳以上が男女合計で147名と人口の67%になっている。今後の活動について不安があり、さらにコロナ禍に伴い、地区行事が中止となる中、今後の行事推進への意欲低下も見受けられ、意欲向上へ向けた方策の検討が必要である。

また、自治体のゴールド集落補助金について、以前は65歳以上が対象であったが、近年70歳以上となったため、財源的にも厳しい面がある。対象年齢を再度65歳以上にさせていただけないか。問題ではないと思われるかもしれないが、大変大事なことである。自治会運営資金を5月ぐらいに自治会に対していただいているが、年寄りが出て回らないが、各自治会が花壇を作ったり綺麗にしようと大変頑張っており、補助金があったら利用して、花壇の花の苗を準備したり肥料を準備したり、お弁当と飲み物は出しても良いと思っている。みんなに何日には花の苗を植えるからと呼びかけるとみんな来てくれる。そういう活動の元になる資本がなければ、活動はできないので、活動ができなければ地域の中、自治会の中でも輪がまた取れるのではないかと。それで、65歳以上にしてもらえないかと考えている。

花畑については、北薩地域振興局にお願いし、5年で区切って道路際を綺麗に花いっぱいにしてほしいという気持でしている場所がある。5年契約を継続して、花いっぱいにしてほしいところである。

未来政策部長

イベントの話と、ゴールド集落の話かと思う。イベントについては、先ほど市長も申しとおりました通り、コロナ前の状態にイベントを再開するのが大きなポイントだと私共も認識している。

色々情報を集めると、イベントのやり方を見直して、例えば地区コミュニティ協議会間で、コミュニティ協議会同士で、一緒に連携することを模索する例や、コロナ禍を契機にこれまでのやり方を振り返り、以前別々にした行事を一緒にするなど、各地区、自治会も含めて、工夫されているところもある。

今後の在り方については、是非、第5次地区振興計画の中でも、地域の中で議論いただければと思っており、近いうちに地区コミュニティ協議会の会長会議もあるので、皆さん工夫されていることを紹介してもらい、できるだけコロナ禍前の状態にするためどうしたらいいかと、知恵を寄せ合う雰囲気も作っていきたいと思っている。

ゴールド集落の話もあったが、市としても制度導入からゴールド集落支援員とし

て職員を配置し、様々な課題解決の相談対応など体制を作っているのも、もっと関わらせようと考えている。合わせて補助金制度については、補助金を活用して、周りの花壇をきれいにさせていただいて、出かけるきっかけになっているという成果は、他の自治会でも多数聞いているが、いずれにしても年齢要件、それから手続きの問題、財源や実行力がだんだんなくなってきたという実態も聞いているので、様々な角度から見直しに向けた作業を進めているので、集落の活性化につながるよう、検討したいと考えている。

市長

寄田地区の人口の話が出たが、地区コミュニティ協議会制度の発足時から、人口格差があり、今48地区あるが、1番人口の少ない地区コミュニティ協議会は27人。1番大きいところは、平佐西地区の1万4000人、次が隈之城地区の1万3000人と、同じ地区コミュニティ協議会という名前であるが、千差万別あるのが本市のコミュニティ協議会制度であるので、今後のアフターコロナイベント開催や、地区振興計画の見直しの時は、人口が類似している同じぐらいの地区の活動実績や活動の方向性、どういうことをやっていこうかということをして市の担当職員も調査し、寄田地区をはじめ全地区につなぐようにするので、大きな参考にされたい。

令和4年度、5年度は、あと2年で市政20周年になる。市は20周年、地区コミュニティ協議会は19周年になるが、今年度から、ゴールド集落、自治会、コミュニティ協議会の組織と、補助金も含め、検証・見直しをやっていく考えである。大きく全部変えるという意味ではなく、制度改正の影響が結果的に、プラスマイナス意見があったように出てきているので、どうしたら556自治会と48地区コミュニティ協議会が、人口の多い少ないによらずに持続可能な活動ができる仕組みと、補助金制度を議論し、議会にも相談してまいりたい。

議題4 「活気あるまちづくり」への支援について【湯田地区】

薩摩高城館のトイレについて、現在、店舗内に汲み取り式の水洗トイレがあるが、従業員用ということで、汲み取りで、すぐ一杯になってしまう。高城館の利用者には、高城駅にあるトイレを利用くださいとお願いするが、言った途端、不機嫌になられて、トイレも無かったというようなことを言われることがすごく多い。

市に何回かお願いしたが、地理的に厳しいところらしく、どうしてもお願いしたい。高齢者の拠り所やうどん屋とかテナントをお願いすると、トイレがあればいいよという方もいる。トイレもだが流しの排水も流せないのも、汲み取って持って帰ってください。とお願いしなければならないので、その話も進まない。地理的に相当費用が掛かり厳しいと市から返事はもらったが、こちらでも、簡易トイレの話や汲み取らない乾燥ばっ気式のトイレがあるらしく、探して検討したが、維持費がかかり、売り上げで賄えるような、金額ではないので、行政になんとかしてもらえないかというお願いである。費用がかかり、地理的に厳しいということらしいが、なんとか行政の方で敷地内にトイレを作ってもらえないか。

未来政策部長

私自身が、薩摩高城駅のポケットパークの整備に空き家がある頃から関わっていた。地理的に厳しいというのは、排水をそのまま流すと線路側に入ってしまうとい

うことである。流末がないので、台所や使った水は、敷地の中で深さ1m50ぐらいの井戸があり、そこに自然流下するようにしている。水洗で街中のような下水処理が厳しい状態が前提でやっていきましょと、設計の段階からやり始め、まだ2年なので、もう少し様子見させてくださいと思っている。しかしながら、従業員用をお客様用にした時に、容量が足らず、簡易トイレで一杯になるような状態になると、逆に困る部分も分かったので、調整をさせてほしい。綺麗なトイレなので、当面は従業員のトイレを使えたらと思っている気持ちもあるが、お客様の利用によっては対応できないと心配をされているので、もう1回協議をやり直させていただきたい。

その他にも大きいイベント開催には、トイレのことがあり、物産施設のトイレだけでは、大きいイベントをした時は足りないのでは、案内の仕方を工夫するとか、もう少し様子を見ながら、現実対応をやっていきながら、協議を進めさせていただきたい。

【追加意見：湯田地区】

イベントの時は仮設を持ってきている。

議題5 災害時避難経路「井高踏切」の拡幅について【西方地区】

旧西方小学校の体育館、西方地区コミュニティセンターが災害時の避難施設に指定されているが、国道3号から入ってくる道路の入り口は広くしていただいたが、その先の井高踏切がすごく狭く、バスなどが通行できない状況にある。施設に入ってくることも出ていくこともできない状況にあるので、子供達のため、地域住民の安全で安心な暮らしを確保していくためにも、拡幅をしてほしいとお願いしているところである。まだ先だと思うが、南九州西回り自動車道の整備もあると思うので、なんとか拡幅していただきたい。これは、西方の生命線と言われているので、お願いします。

未来政策部長

踏切の拡幅については長い間、要望いただいております、今年度、概算事業費と整備手法を検討するための概略設計を実施する。この結果を見ながら、肥薩おれんじ鉄道などと実施に向けた協議を進めてまいります。

線路の拡幅に事業費もかかるが期間がかかる場所もあり、有利な財源も含めて整備手法を研究する必要があるため、今年概略設計し、どれぐらいの事業費で、どんな工程で工事していいかと、ちょっと進んだという認識をいただいて、関係機関との協議も丁寧にさせていただければ、先に進めるのではないかと考えている。時間をいただければありがたい。

市長

この議題については、これまでのまちづくり懇話会でも、市議会でも質問いただいている。私もコミュニティセンターや学校のイベントに、線路は何回も通っており、今日も現場を確認した。申し上げたように今回初めて、調査費として基本設計したので、どれぐらいの工事費がかかるか、どういったやり方が適切なのかというところから始めなければならないし、あそこは海水浴場に引き込む川のあたりから駅が近いこともあり、線路が2本走っていることと、仮に工事をするとしても、電

車が走る線路であるので、そのところの兼ね合いを考えなければならない。南九州西回り自動車道との関連については、自動車道の整備計画とどのように路線がかかっていくかということも国と状況の確認をしてまいりたい。

フリートーク

未来政策部長

寄田地区と湯田地区からの地区振興計画の振り返りの中であった質問について、お答えする。

湯田地区の振り返り、湯田小学校跡地の活用と、塩玉ねぎの話についてであるが、まず、湯田小の跡地活用として、以前は川内マルシェやイベントが実施されていた。

閉校跡地活用については、平成29年に遊休施設の利活用促進条例を改正し、平成30年からの5年間、つまり今年度まで強化期間ということで、補助金を用意して取り組んでいるが、湯田小学校跡については、問い合わせや現場見学の例はあるが、確定的、具体的な事案となっていない状況で申し訳なく思っている。

引き続き利活用のアピールは続けるが、令和5年度以降の跡地の利活用制度については、補助金も検討中で見直しも分かっていない状況である。言われた通り暫定的な利用で、イベントの誘致は市としても紹介できる体制を作ってまいりたい。

塩玉ねぎは、私共の認識として、正直申し上げると営農指導の強化、充実をと思っていたが、そうではなく後継者が課題ということである。いずれにしても、農林水産部が認識しているので、色々協力させていただきたい。

あと、寄田地区から2点あった。1点目の天狗鼻については、県道から2カ所入口があり、奥の方、いわゆる土川側の方から天狗鼻の付近までが市道になっている。ここの伐採で、秋口にはイベントをされる情報も聞いており、建設部もそれに合わせた伐採ということで十分認識している。計画的に9月頃から道路作業班で伐採を行うように計画していると聞いているので、打ち合わせをさせていただきたい。具体的な日程が決まれば、それに合わせられると思う。合わせてそこから、望楼台までは教育委員会で、年2回ぐらい伐採しているが、教育委員会もそれに合わせて伐採し、歴史名所巡りでお客様が安心して、行けるようにしたいと考えている。

整備の考えとして、今も鉄の柵や案内板をしているが、今後の活用については、改めて意見交換をさせていただきたい。整備しただけでお客様が来るような場所ではなく、話題も作っていかないといけないと思っており、地元の協力も必要である。地区振興計画の改定も含め、議論させていただきたい。

【意見：寄田地区コミュニティ協議会会長】

今でも地域だけでなく、話を聞いて他所からたくさんみえる。手前からは軽車両で入っていけるが、天狗鼻、釣り場に降りる手前が、望楼台に降りるところになっており、その先、土川の方からの道路が綺麗に整備されたら、突き当たりで車両のUターンができるが、現在、手前から行くところでは、Uターンができない状態になっている。市の文化財であり、東シナ海は野間岬が出ている。その次に出ているのは天狗鼻、その次は天草半島と1番突き出した半島があり、それから望楼台まで降りて行って海を眺めたら景観がすごく良い。南の方には沖ノ島、俗に猿島も綺麗に見え、甌島列島も綺麗に映えて見えるので、整備できたら見学者は増えると思う

のでお願いしたい。

未来政策部長

もう1点棚田の話があった。先人が苦勞して棚田が作られた話を直接聞いたことがあり、中山間地域の直接支払い制度を活用してできないかということであるが、市長の裁量というよりも制度的な過疎地域の指定など色々あるので、いずれにしても里の会を中心にした保全活動をどう進めるかということだと思うので、改めて個別に今後の進め方を一緒に考えさせていただきたい。

【意見：水引地区】

天大橋の工事の時に他の橋が相当な混雑だった。聞くところによると、もう1つ育英あたりに道路の計画が前からあるという話を聞いた。できれば原発の事故の可能性もあるし、その橋を作っていただきたいと要望する。

未来政策部長

天辰側と中郷側に都市計画道路が計画されている。橋の計画があると聞いたと言われたが、計画はない。構想というか、市の計画、県の計画上も橋をかけることは、まだ明確になされていないところである。

2つお答えするが、1つは、大きい視野でそういう橋が必要だという要望は受け止めたい。それを市がやるのかどうなのかは、また違う話になる。

もう1つは混雑について、天大橋もそうだが、大きい橋は供用しながら橋を通しながら工事をするのでなく、一旦止める形で南九州自動車道などでもやっている。今回は、時差出勤など色々やったが、止めるとなった時にできるだけ迷惑をかけないやり方、ソフト的な対策がどうできるか、引き続き検討してまいりたい。

【追加意見：水引地区】

大綱引きで国道3号を通行止めにする。あの時は、国道3号の橋を向田やいちき串木野市に行くのに2時間ぐらい経たないと通れない。川内の友達との話であるが、もし原発で避難とか災害という時、非常時には橋がいる。育英のところまではどうもできている。あとはやるだけという話を聞いたので、要はお金の問題だと思うが、なるべく田中市長にやってもらいたいとお願いしているところである。

市長

市議会でも、熱心な質疑があった。川内串木野線、県道の話も出たが、どの順番でやるかが大きな課題なので、市議会のことを含め、ただいまの分は要望として受け止めたい。いずれにしても計画的には中郷側の方は空いており、それから天辰側の方も順次、正式決定はしていないが、大きな2環状8放射という市の大きな構想レベルのものがあるので、要望として受け止める。

【意見：水引地区コミュニティ協議会会長】

2点ほどある。先日、中学校で学校運営協議会があり授業参観があったが、この授業参観時に普通の教室は、全館冷房ついているが、音楽室と家庭科室は冷房が全くない。生徒も汗だくになっているし、保護者もこれは暑いですねって言う状態で、生徒の熱中症が心配である。とてもじゃないけど我慢できる状態ではないので、エアコンをつけてもらえないか。

もう1つは、今年から水引地区コミュニティ協議会が、ウミガメの保護で唐浜海岸、湯田の海岸、西方海岸をパトロールしている。6月14日から始め、6月、7月、8月とやっていくが、6月中にウミガメが3回上陸した。6月で3回、上陸している中で、卵が1回発見でき134個卵があった。これを来た場所に運び掘った深さと同じ深さに掘って卵を入れて被せている。ウミガメが3回上陸し1回卵を産んでいるが、あと2回は引き返して帰ってしまった。我々は7月の海開きの前に海岸清掃で、海岸の波内際の竹、木くずなど、漂着物をかき集めて燃やし清掃している。ウミガメが上陸するシーズン前に海岸に漂着物が溜まっているから、ウミガメ保護から、これを1回重機で作業してもらいたい。1回やれば、ウミガメも上がりやすいと思う。引っかかたりしてしまうことで引き返してしまう。光を見ただけでも変えたりする非常に敏感な生き物なので、清掃を1回シーズン前にやってもらいたい。

未来政策部長

エアコンの話であるが、普通科教室は言われる通り設置したが、特別教室は大体4割弱まだ進捗があり、計画的に整備することとなっている。整備も利用頻度の高い部屋、家庭科室、音楽室、他に理科室などと思うので、利用頻度の高い教室からと聞いている。水引でそういう話があったとのことなので、学校に話を聞いてみたい。たまたま音楽の授業だったのか利用頻度が高いのか、他の学校の兼ね合いもあり、いつ整備するかもあるので、学校と確認をさせていただきたい。

ウミガメの件は、海水浴場のオープンの期間が7月9日から、8月のお盆過ぎまでだと思う。その前も含めて3回ぐらいは清掃していると聞いているが、重機を入れてはないので、重機を入れるとなると海岸の管理者が県になるので、県と話をしながらどのような取り組みができるか協議をさせていただきたい。

【追加意見：水引地区】

重機でないと人力で掻き集めるのは不可能と思う。重機が入ってくれば良いと思う。

市長

具体的にウミガメの上陸の時期、ゴミが溜まる時期、距離も長いので具体的に教えていただいて確認してまいりたい。

【意見：西方地区コミュニティ協議会会長】

2点ある。白滝川の補修の更新工事をされているが、上流から人形岩のすぐ近くまで大きい石が流れ込むぐらいに川底が荒れており、両石垣の下の段は、大概一緒に持っていかれる。今やっている箇所他に、そういうところがたくさんあるので、再度確認をいただいて、また、補修の更新工事等に検討していただければありがたい。

2つ目は、シカとかイノシシなどの害獣が横行し農作物の被害が甚大だと思う。私の知り合いでも罫猟の資格を取って、地域の要請があるからと一生懸命やっている人がいるが、獲った後、解体とか埋設しか方法がなく、大きいものだと埋ける穴を掘っての埋設が大変らしい。こんなに増えて、今頻繁に出会うもので、なかなか進まないと思うところがあり、捕獲成果を上げるため、色々方法はあると思うが、

捕獲後の対策、処理施設、処理の方法についてと、成果をあげるのは色々方法があるのかもしれないが、この前不正もあったので報償金をあげると訳にはいかない話だと思うが、市の考えを聞いてみたい。

未来政策部長

2点いただいたが、白滝川は現場の状況が分かったので、担当部から確認をさせて、地区コミュニティ協議会長に報告させていただきたい。

他にも危ないところがあるのではないかということなので、特に擁壁というか護岸の下の方の洗堀が起きているのではないか。ということなので、確認したい。

害獣については、捕獲成果を上げるためのやり方とその処理の施設の話があった。流れは一緒であるが、それぞれ場面が違っており、処理については、阿久根の処理施設はご存じだと思うが、処理後の販路、いわゆるジビエ料理とか課題があるようで、明確な解決策に至っていない現状である。頻繁に会うと言われている状況は市内のあちこちにある状況であるが、農林水産部にこういうことをやっている。検討をしている。という情報があったら提供させていただきたい。

市長

鳥獣害のことは、令和コミュニティトークでも特に中山間地域で意見が出ている。私の八幡地区も朝晩見かけることで、最近はやナ猟に県全体もシフトしている。ただし、ワナにかかっても最後の仕留めは狩猟免許者が処分するということなので、猟友会に埋設を含めたアドバイス、相談をしていただきたいと考える。方法は、施設を作るとなると、衛生管理の許可面とか、売れるか売れないかという議論になるので、状況は分かっているの、畏にかかった後の処理やその後の処理についても、猟友会と協議していただきたいと考えている。

【意見：滄浪地区コミュニティ協議会会長】

川内港久見崎未来ゾーンへの九州電力社員寮の誘致について伺いたい。現在、整備中の久見崎未来ゾーンは、今後企業などの誘致が行われると思うが、地域の賑わいと人口対策のために九州電力に対して寮の移転や誘致をできないか、また合わせて、九州電力川内原子力発電所展示館の移転なども考えていただきたいと思う。

未来政策部長

未来ゾーンについては、平成22年12月に滄浪地区コミュニティ協議会から市に対して地域振興策の要望があり、平成29年に事業着手している。今後の予定としては、来年度の令和5年上期に第1工区8.5haを分譲開始し、今年の1月には分譲の予約開始も予定している。今のお話は、平成22年の地元要望で九州電力の職員および関連企業の両宿舍の建設と、展示館設置の要望を1回受けている。今年3月の地元の説明会でも同じような意見をいただいているので、今日のことも含め九州電力に対し、要望があった旨は伝えさせていただきたい。